

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

SANCHI

[サンチャ]

vol.06

Mar.2023

危機管理学部

COLLEGE OF RISK MANAGEMENT



特集

「ロシアによるウクライナ侵攻」を考える

教員ディスカッション

日本大学 三軒茶屋キャンパス 広報誌

SANCHI

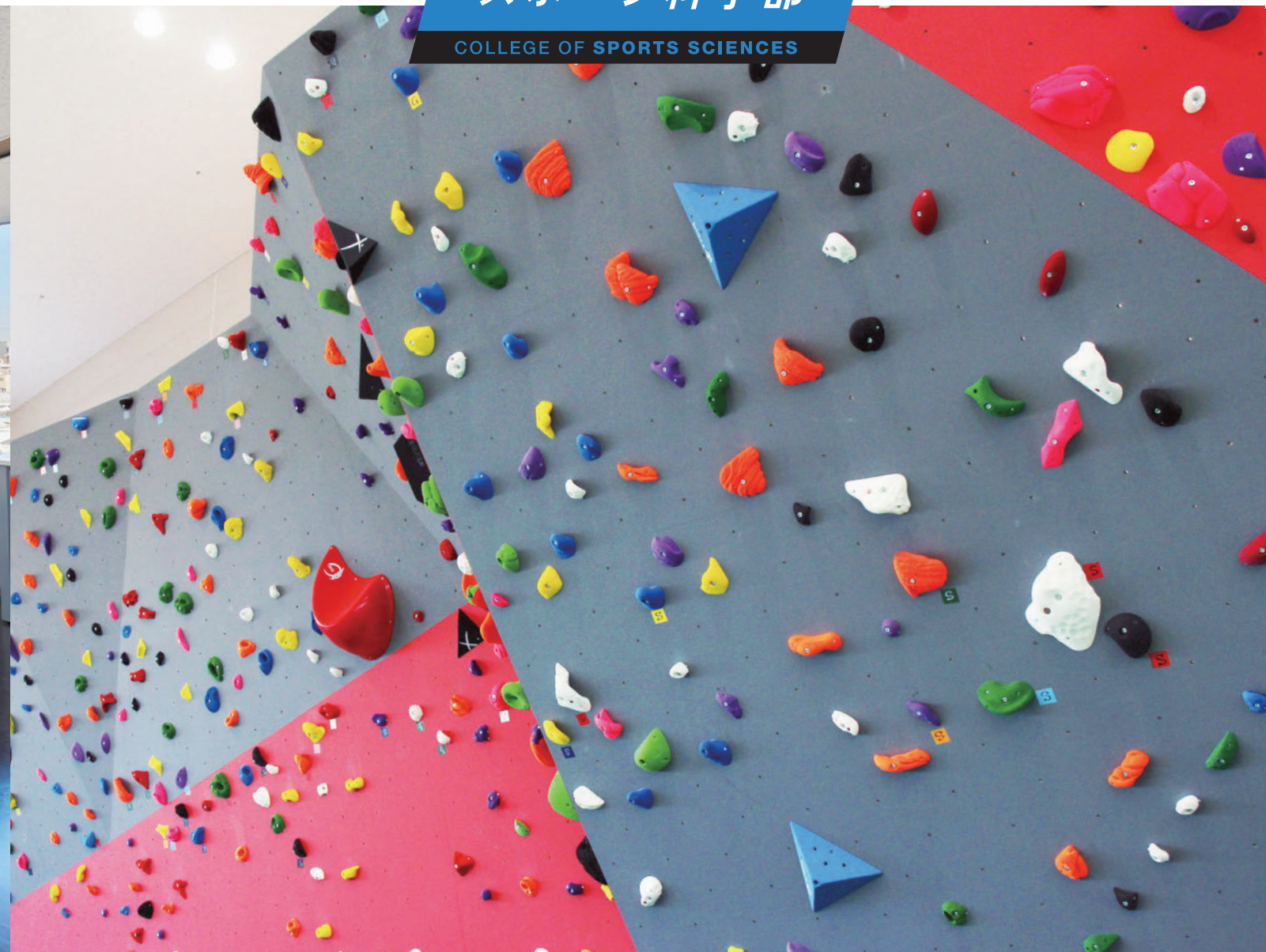
[サンチャ]

vol.06

Mar.2023

スポーツ科学部

COLLEGE OF SPORTS SCIENCES



スポーツ科学部の未来を担う

FUTURE フューチャー
アスリート ATHLETE

特集

Voice 01



Karate

空手道

スポーツ科学部 2年
澤井 天心
(淑徳巣鴨高等学校)



将来の夢のために

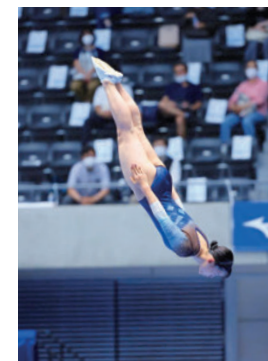
私は極真空手を専門として無差別級でも活躍し、優勝することが夢です。その夢をより達成しやすくするためにスポーツ科学部への進学を決めました。先生方は元アスリートの方が多いため授業内容が自分自身の競技力に直接繋がられる部分がとても魅力的な学部です。

- 第七回世界ウェイト制空手道選手権大会 男子軽量級の部 第3位(新極真会主催)
- 第七回全日本フルコンタクト空手道選手権大会 男子軽量級の部 準優勝 (JFKO主催)

Trampoline

トランポリン

スポーツ科学部 2年
三澤 優華
(日本大学豊山女子高等学校)



競技力向上に向けた環境

私はトランポリン競技でオリンピックに出場しメダル獲得を目指しており、競技力向上に繋がる授業や施設に魅力を感じ本学に入学しました。本学でトランポリン競技を行っているのは私1人ですが、他競技選手との関わりや授業を通して、新たな発見や刺激をもらい毎日充実した学生生活を送っています。

- 2021年11月 第28回世界年齢別大会 17-21歳女子3位
- 2022年8月 第57回全日本学生トランポリン競技選手権大会 Aクラス女子2位
- 2022年9月 第46回東日本トランポリン競技選手権大会 個人・シンクロ Aクラス女子3位

Voice 03



スポーツ科学部の未来を担う

FUTURE ATHLETE

フューチャーアスリート

Voice 02



Sport Climbing

スポーツ・クライミング

スポーツ科学部 1年
川又 玲瑛
(宇都宮南高等学校)



世界一のクライマーになりたい

少しずつ大学生という新しい環境にも慣れ、良い練習が出来ています。世界選手権の優勝、オリンピックへの出場を目標に現在はフィジカルやパワーを強化しています。感覚や意識の言語化、他スポーツ競技者との交流など、スポーツ科学部での学びを上手く練習に取り入れ、日々成長することを目標に頑張っています。

- ボルダリングワールドカップ2022ソルトレイクシティ 3位
- ボルダリングジャパンカップ2022 6位
- コンバインドワールドカップ盛岡 7位

Diving

飛込

スポーツ科学部 1年
金戸 凜
(目黒日本大学高等学校)



学校の勉強を競技に活かせる充実した日々

私の将来の目標は、オリンピック出場、メダル獲得です。競技を頑張っている中色々なことが学べると聞きスポーツ科学部に決めました。競技スポーツ習得実習という授業では、自分の競技と改めて向き合うことができ、今の競技生活に活かしています。

- 2022ブダペスト世界水泳3m飛板シンクロ 2位
- 2022年インカレ10m高飛び 優勝
- 2021年日本選手権3m飛板 優勝

Voice 04





種ヶ嶋 尚志 教授



スポーツ心理学
ゼミナール
Twitter



科学的エビデンスに基づく、スポーツ実践・サポートの心理学的専門家を育成する。

スポーツ心理学とは、「こころ」のように目に見えないものを、心理・生理・行動（パフォーマンス）の全ての指標を活用して科学的に研究する、体育・スポーツ・健康に関する複合領域の応用行動科学です。本ゼミナールは、心理学領域の研究論文講読・心理実践・ディスカッションを通して、心理学研究を進める上での基礎知識、研究方法を学んでいます。具体的には、「運動指導・動機づけ・リーダーシップ・チームビルディング・競技不安・ストレス・健康心理など」といった心理学的な課題に関

わる文献発表、心理統計法の習熟、卒業研究に取り組んでいます。また、本ゼミナールでは自主的活動を重視しています。本学教育理念である「自主創造」の精神のもと学生が企画を立案し、自ら学びたい事柄について学生間で議論、課題設定し、調査研究された成果を学会発表することやスポーツ心理学の知見をSNS等で発信することなどを通して、実社会で活用できる専門性とスキルを身に付けられるよう支援しています。

スポーツ科学部 | 授業紹介

コーチング学研究法演習

スポーツ科学部
本道 慎吾 准教授



この演習では、コーチング学およびコーチング実践の入門と位置づけられ、競技特性に応じたコーチング理論や、コーチとして指導現場で活動するための基本的な考え方、パフォーマンスを獲得するためのコーチング技術及び様々な能力を修得するための研究法を理解することを目的としています。

スポーツトレーニング実習Ⅰ～Ⅳ

スポーツ科学部
原 伶来 専任講師



この実習は、スポーツにおける様々なトレーニングの実践方法やその評価方法について実習を通して身につけることを目的としています。実践したトレーニング内容を基にその感覚情報やトレーニング管理に必要な情報を整理し、その情報を基に学生間で反省的議論を行うことによって新しい運動感覚や、効果的な指導方法の獲得を目指します。

ピックアップアスリート

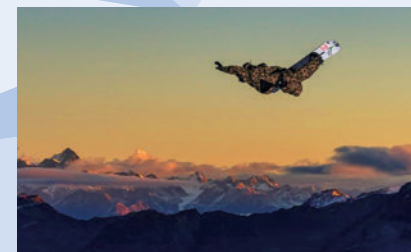
Pick Up Athlete 2022-2023



Badminton バドミントン

スポーツ科学部 3年
奈良岡 功大 (浪岡高等学校)

- 第75回全日本総合バドミントン選手権大会 男子シングルス 準優勝
- マレーシアオープン2023 準優勝
- ベトナムオープン2022 優勝



Snow board スノーボード

スポーツ科学部 2年
平野 海祝 (開志国際高等学校)

- FIS SNOWBOARD WORLD CUP 2023 COPPER MOUNTAIN (USA) 3位
- Beijing Olympic Games 2022 (北京オリンピック) 9位
- WINTER X GAMES 2022 3位
- III Winter Youth Olympic Games 2020 2位



Surfing サーフィン

スポーツ科学部 1年
金沢 呂偉 (未来高等学校)

- JPSA ショートボード第2戦 新島プロ 優勝 (2022)
- JPSA ショートボード第4戦 ムラサキ鴨川プロ 優勝 (2022)
- JPSA 特別戦さわかみアジアチャレンジー宮 優勝 (2022)



Swimming 競泳

スポーツ科学部 3年
本多 灯 (日本大学藤沢高等学校)

- 世界選手権 男子200mバタフライ 3位 (2022年6月)
- 日本短水路選手権で男子200mバタフライ 短水路世界新記録樹立 (2022年10月)



Swimming 競泳

スポーツ科学部 4年
小堀 俊加 (湘南工科大学附属高等学校)

- 世界短水路選手権 女子400m個人メドレー 3位 (2022年12月)



Swimming 競泳

スポーツ科学部 1年
小方 颯 (日本大学高等学校)

- 世界短水路選手権 男子400m個人メドレー 5位 (2022年12月)

Athlete support personnel ——— アスリートサポートとして



関東学生陸上競技連盟
2022年度幹事長

スポーツ科学部 4年
高橋 花奈
(成田高等学校)

関東インカレや箱根駅伝を運営する立場で活動するため、トップアスリートや指導者の考え方・競技に取り組む姿勢を学び、コロナ禍で競技会開催が困難な時期には“選手が輝ける舞台を準備することが私の使命”だと強く感じ、邁進しました。「競技会を開催してくれてありがとう。」何気ない一言が、私の原動力です。





三茶祭

2022 レポート

第6回の三茶祭は、対面とオンラインのハイブリッド開催となりました。「Face to Fes. ～ひかえめに言ってちゃんこう～」というテーマを掲げ、対面だからこそ叶う特別な「出逢い」に期待し、三茶祭だからこそできる最高の体験と喜びを感じるという想いを込めた2日間です。2年ぶりの対面開催となった三茶祭を写真とともに楽しみください。

Face to Fes.



「三茶CBRNレスキュー 2022」と題し、テロ対応共同実動訓練を展示。



陸上自衛隊音楽隊の奏でる美しいハーモニーがステージを彩ります。

ゲーサインが
来てくれました！



全身を使ってクライミングに挑戦！
身体全体と頭脳を駆使します。

オンライン
でも！

オンライン企画として、三茶祭の賑わいが感じられるライブ中継や実行委員によるラジオを配信しました。



DAY1のライブ配信画面



DAY2のライブ配信画面



企画「みずがめラジオ」

閉会式

実行委員長とさんちゃん・チャーさんがご挨拶をしました。



MESSAGE

from DEAN of SS

スポーツ科学部長
小山 裕三 教授



4期生の皆さん、並びにその保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。昨年度までは、コロナ禍にありオンラインやオンデマンド動画での授業が中心でしたが、今年度は多くの授業で感染症対策を取りながら対面での授業が展開されました。それと共にキャンパスには学生の声が響き、活気が戻り、スポーツ活動、勉強などに励む姿を見ると、ようやく大学生らしい生活を送ることができたのではないかと感じます。4期生の卒業までの4年を振り返ると世界的にもまさに「激動」の一言であり、より不確実で不安定な時期であったと思います。そのような状況の中でもスポーツを通して学修した「反省の実践」を存分に生かし、スポーツ科学部のスローガンである「君が世界を熱くする」を胸に個々が能力をいかに発揮し、活躍することを願っています。

ホームカミングデー Homecoming Day

開催日時：令和5年11月4日(土) 午後

このイベントは大学時代の友人達と旧交を温めたり、後輩の様子を伺ったり、お世話になったゼミナール等の先生方と会って近況を語り合うなど自由な時間を過ごし、学生時代の思い出を呼び戻していただくことを目的としております。



Day



後輩達が実施する三茶祭を楽しんでいただきつつ、皆様のご友人をお誘いあわせの上、三軒茶屋キャンパスへご来校いただけることを教職員及び在学生一同お待ちしております!!

参加を希望される場合は、後日ホームページに申込フォームを設けますので、そちらからお申込みいただきますようお願い申し上げます。
※写真は令和4年度開催時



MESSAGE

from DEAN of RM

危機管理学部長
福田 弥夫 教授



第四期生の皆さん ご卒業おめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で2年次、3年次の授業はオンラインやオンデマンドが中心となり、それまでとは全く異なる大学生活を過ごされました。世界中の大学生が同じような環境下で学びましたが、生涯の友との出会いの場でもある大学での交流は制限を受けてしまいました。私たちも戸惑いと混乱の中で、できる限りの対面授業実施という方針ですすめてきましたが、変異株の出現などで変更を余儀なくされるなど大きな困難が伴いました。そんな中でも着実に学びを修め、これから社会へ旅立つ皆さんのこれまでの努力に敬意を表します。

「Where there is a will, there is a way」強い意志をもってすれば、道は必ず開かれるという意味です。皆さんは新しい生活を始めますが、強い意志で何事にも向かってください。

通常とは異なり、苦労をした2年間の経験をもとに、社会へ羽ばたいていく皆さん。その前途に幸多かれと祈ります。元気な姿をホームカミングデーで見せてください。

卒業生 NOW!

社会の様々な領域で活躍している危機管理学部の卒業生たちをご紹介します。

東京電力ホールディングス株式会社 勤務

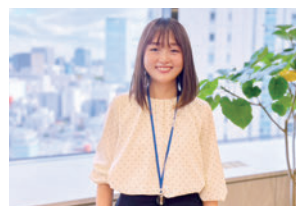


令和元年度卒・1期生
山下 絵来帆

災害に対するリスク管理のために

現在は事務系職員として、電力事業に従事しております。危機管理学部で学修した4年間は、幅広い領域のリスクについて基礎的なことから実務的なことまで学ぶことができ、特に、災害に対するリスク管理について学べたことは私にとって現在の業務に大いに活かしています。プレゼンやディスカッションをする機会も多くあったことから、コミュニケーション力も培うことができました。危機管理学部での学びは私にとって一生の財産となりました。

日本建設情報総合センター (JACIC) 勤務



令和2年度卒・2期生
河野 加歩

情報の利活用で建設業界をより良くしていく！

JACICは、国や地方自治体が進める建設事業を情報の利活用という分野で支援する財団です。私の所属部署では公共工事、業務の情報を集めて、国や地方自治体、企業等が活用できるようなシステムの運営を行っています。このシステムを利用することで、より公正公平な公共工事、業務の発注を行うことが可能となります。

危機管理学部では災害マネジメント領域で学び、公共工事の重要性を痛感しました。現在は建設業界全体に貢献できるようなこの仕事にとってもやりがいを感じています。

神奈川県警察 勤務



令和3年度卒・3期生
佐川 明

安心安全な社会を実現するために

私は現在神奈川県警察の一員として勤務しています。警察学校を卒業してから日々様々な通報が入る現場を経験し、警察官を頼る県民の期待に応えられる立場にいることに誇りを感じます。幅広い警察業務において危機管理学部で学んだ刑法や行政法といった法律が求められる場面が多いと実感します。今後も様々な現場に対応するために各種法令の勉強や体力づくりに励み、県民の期待に応えられるように研鑽を重ねたいです。

国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所 勤務



令和3年度卒・3期生
渡邊 隼佑

全力で国民の方々の安心・安全を目指します

私は国土交通省関東地方整備局の採用で、現在は長野県内の国道事務所に勤務しております。用地課に所属しており、専門的なことが多く、とてもやりがいを感じています。大学時に学んだことも活かして、国民の方々の安心・安全な生活を支えられるよう日々の業務に取り組みます。

COLLEGE OF RISK MANAGEMENT

教員の眼



危機管理学部
勝股 秀通 教授

インタビュー：危機管理学部 3年
須藤 大介

「失敗を恐れろ」——。その代わり準備し、目標を定め、自信をもって一歩踏み出そう。



〈教員プロフィール〉
1983年読売新聞入社。主に防衛問題を担当。防衛大安全保障研究科修了後、解説部長、編集委員等を経て2016年より現職。

須藤 新聞記者から大学教授への転身、大変だったことはありますか。
勝股 記者として社会の動きに目を凝らし、「なぜ」「どうして」を考えることは危機管理にも通じることだと思います。コロナ禍で人と接する機会は減ってしまいましたが、その分記者時代に負けないような情報収集に汗しています。みんなも時にはスマホを置いて新聞を読む癖をつけられれば、きっと世界が広がると思います。
須藤 危機管理学部の学生に心掛けてほしいことは何ですか。
勝股 若者たちに贈る言葉として「失敗を恐れろ」があります。が、私は逆に「失敗を恐れろ」と思っています。失敗を恐れるがゆえに、事前に準備し、目標をしっかりと定めることの大切さを身につけてほしいのです。そうすれば、自信をもって大きな一歩を踏み出すことができると思います。

危機管理学部 ゼミナール紹介

木村 敦 研究室

担当教員
木村 敦 教授



心理学の観点から危機管理上の諸課題を分析

木村ゼミでは、事故につながるヒューマンエラーや、防犯・防災行動に影響を及ぼすリスク認知、被災者の心理的ケアなど、危機管理にかかわる様々な「人間の心理・行動」を心理学の知識と研究法により分析的に読解します。研究発表や輪読に加えて、ゼミ生同士のグループで心理実験・調査を行うなど、主観性の強い心理現象をどのように客観的に測定・分析するか、日々学びを深めています。

〈教員プロフィール〉
日本大学大学院文学研究科修了、博士（心理学）。食品総合研究所、東京電機大学を経て、2016年に本学部着任。専門は認知心理学、社会心理学。

“危機管理”を

見て聞いて知って！

オープンキャンパスを完全対面で開催！

一昨年度はオンラインのみ、昨年度はオンラインと対面の併用でしたが、本年度は完全対面で開催し、多くの方が来場されました。企画としては学部説明、模擬授業、進学相談会、総合型選抜説明会、キャンパスツアーに加えて学生によるSDGsに関する研究の展示も行いました。また、サポート役として多くの学生が参加し、学生広報アンバサダーがオープンキャンパスの様子をInstagramで配信しました。こうして、教職員と学生が一体となって危機管理学部の魅力を伝え、3年ぶりの完全対面オープンキャンパスは活気に満ちたものになりました。

危機管理学部オープンキャンパス 2022模擬授業

- 首都直下型地震 その時何が起こるか？ 山下博之准教授
- 犯罪統計の読み方 古谷洋一教授
- ウクライナ情勢を考える 小谷賢教授
- ロシア・ウクライナ戦争における陰謀論と情報戦 福田充教授
- 危機対応と憲法 杉山幸一教授
- 安全・危険を「色」で伝える 木村敦教授



たる姿勢を示すことが求められているのです——以上のような時代情勢に対する分析と提言をしました。

インテリジェンスとは何か

次にインテリジェンス論が専門の小谷賢先生が、次のような論点を示しました。ウクライナ戦争において、ロシアはハイブリッド戦争と呼ばれる戦争形態によって、ウクライナ軍事占領を目指しました。これはウクライナの情報インフラを破壊し、偽情報を流布する事によって、ロシアの正統性の主張とウクライナ国民の士気を低下させる目的でしたが、上手くいきませんでした。その理由は欧米が正確な情報を流布すること、ロシア側の偽情報を封じ込めたためです。また偽情報の精査はベリグキャットのような民間団体が、情報インフラについてはマイクロソフトやスペースX社といった民間企業が担っているのも今回の戦争の特徴です——日常生活ではなかなか触れられない「インテリジェンス」という学問分野を学ぶことができるのも、危機管理学部の醍醐味でしょう。その知的刺激に充分に応えるために、小谷先生は、私たちに馴染み深いSNS等で発信される「偽情報」が、いかに戦争という大問題にまで影響力をもつのかを、分かりやすく論じてくれました。

日本人の防衛意識

そして三番手として防衛政策が専門の吉富望先生が、日本の安全保障の問題点を学生に対して訴えました。軍事力ではロシアに劣るウクライナが長期にわたって抵抗を続けられる最大の理由は、ウクライナ国民の抵抗意識の強さです。ウクライナ国民は、抵抗を止めればロシアに支配され、自由や民主主義や基本的人権が無くなることを知っています。つまりウクライナ国民は、自らが重要だと信じる「価値」を守るために抵抗を続け、それによって人命を失うことも容認しているのです。日本は今、大変厳しい戦略環境に直面しています。日本人も、侵略に抵抗する基盤となる自らの抵抗意識を見つめ直す必要があります——ともすれば、戦争は好戦的にも厭戦的にもなるものですが、こうした国民の心情にまで分け入った緻密な議論をすべきだと吉富先生は問題提起しました。

危機管理学と戦争

そして最後に危機管理学が専門の福田充先生が、俯瞰的な観点から次のように問題提起をなされました。ロシア・ウクライナ戦争は、プーチン政権のロシア軍による一方的な軍事侵攻によって始まりました。その後、ロシア軍は民間人の大量虐殺や原発

日本大学危機管理学部では、昨年2月からはじまったウクライナ危機に対し、それぞれの専門教員によるディスカッション『ロシアによるウクライナ侵攻』を考える』を6月に企画・開催しました。多数の現役学生の参加のもと、学部学生にもわかりやすい討論の構成、またSNS等を用いた外部発信も行いました。以下では各教員の意見を中心に、討論の様子を再現してみましよう。

国際法から見たウクライナ危機

まず国際法が専門の安藤貴世先生が、発表タイトル「プーチン大統領を戦争犯罪で裁くことは可能か？」と題して、次のような問題提起を行いました。ロシアによるウクライナ侵攻を国際法の枠組みから見た場合、様々な論点が考えられます。国際刑事裁判所（ICC）による対応もその1つですが、例えばプーチン大統領をICCにおいて裁くには、逮捕状の発付、身柄の拘束といったハードルが存在します。現在、ICC等がウクライナ領域内で捜査を行っており、ICCには時効がないことから、戦争犯罪等について客観的な証拠を積み重ね、記録を残すことは非常に重要でしょう。重大な国際犯罪に責任を有する者に対し、国際社会全体で、「不処罰を許さない」という確固

への攻撃など、国際法違反である戦争犯罪を繰り返しました。その倫理的責任が問われなくてはなりません。チェチェン紛争、シリア内戦、クリミア紛争と一貫してプーチン政権はこうした非人道的行為を繰り返してきましたが、それを国際社会が放置してきたことが、今回の戦争の要因となったのです。人道主義の観点から平和構築するため、私たち日本の市民も戦争と向き合わなくてはなりません。

全体総括

以上、四名の先生による提題をふまえて、活発な議論が展開されました。多くの学生の聴衆にわかりやすいように、危機管理学と戦争がどのような関連性をもつのか、テロリズムと戦争はどう異なるのかを、国際法やインテリジェンスの分野から俯瞰する試みがなされました。また極東アジア情勢にまでウクライナ危機が影響を与えること、しかし冷静に日本人として、まず何を考える必要性があるのかについて、吉富・福田両先生から示唆的な問題提起もなされました。学生から大いに知的刺激を受けたとの事後報告を受けました。

当日の動画はこちらをご覧ください。



日本大学危機管理学部

「ロシアによるウクライナ侵攻」を考える 教員ディスカッション



危機管理学部
福田 充 教授



危機管理学部
小谷 賢 教授



危機管理学部
先崎 彰容 教授



危機管理学部
安藤 貴世 教授



危機管理学部
吉富 望 教授

Student's IMPRESSION

危機管理学部 3年
原 しずく



罪のない沢山の市民が亡くなっているなかで、事態を収束するための強力な術を持たない国際社会という枠組みの脆弱さを感じました。この侵攻により、平和は訪れるものではなく構築するものであると気付かされたため、ただ平和を願うだけでなく、国際組織として大国にも平等に対処できるような機能を作っていく必要があると感じました。

Student's IMPRESSION

危機管理学部 3年
大内 華乃



情報の取捨選択、そこから何を受け取り、社会にどのように発信するかが重要だと感じました。今の世界情勢に対し許せない、状況を変えたいと思う気持ちを忘れず、学生だからこそできる自由な表現方法で社会に意見表明していきたいです。今回のように、同世代の若者が集まり議論する機会を増やすべきだと感じました。